



## 「日本語は難しい」～漢字の「使い分け」～

今回は漢字の「使い分け」を取り上げます。

来週は第2学期の終業式です。この「終業」と似たような漢字に「修業」があります。

ご存知のように、「終業」は、第2学期間のように、定められたある期間にわたって継続してきた学業を“おえる”ことを意味します。一方、「修業」は、学業を“おさめおえる”ことであり、決められた範囲の教育内容又は一定の課程を学習しおえることを意味します。ちなみに、



〈前学年の修了をめざして～チャレンジ漢字テスト～〉

後者に関し、卒業式に配付する卒業証書には「～の課程を修了したことを証する」とあります。このように「終業」と「修業」は、同音でも、意味はまったく異なります。

「修」の漢字関連として、「修得」と「習得」も同様です。「修得」は“学問技芸などが身に付くよう努力して自分のものにする”という意味です。「習得」は“上手になるように同じことを繰り返したらう”という意味です。もっと身近な言い方をすれば、知識技能を身に付けるのが「習得」、大学のような場で単位を取って一定のコースをおえるのは「修得」です。さらに「修」関連例をあげれば、「履習」と「履修」もまったく同様です。

漢字(漢語)には、このような「使い分け」がたくさんあります。例えば、上で使用した卒業証書の「配付」と「配布」をはじめ、子どもが持っている「(国語)辞典」と「字典」と「事典」、また、高等部や日本語科の「受験」と検査の「受検」、宿題を「課する」と罰則を「科する」、子どもの発達を「成長」か「生長」か等々、いくらでも思いつきます。

もともと、英語にしても、“speak” “say” “talk” “tell” や “take part” “participate” “join” “attend” のように「使い分け」をする語句があります。しかし、漢字の語句(漢語)の場合、ある漢字と別の漢字の組合せがほとんどで、その分、数が大変多く、「使い分け」も容易ではありません。漢字一つ一つの意味をしっかりと理解していれば問題はないのですが、大人でも難しいといわざるを得ません。「修める」の意味を思い出そうとおろおろしているうちに、「納める」「収める」「治める」の言葉が浮かんで来て、まさに収まりがつかなくなってしまうかもしれません。(そのくらい言葉が浮かんでくればよしとしてもよいのかもしれませんが……。)

私は英語はほとんど分からないのですが、わずかに習得した(というより頭に残っている)英単語で漢字の「使い分け」をすることがあります。例えば、「修了」と「終了」は「master」と「finish」といった具合です。邪道かもしれませんが、クロイドン校舎の児童生徒には、このようなおさえ方もありかな、などと思うことがあります。

さあ、来週は終業式。翌日からは冬休みに入ります。休み明けの第一回目の授業日は令和2年1月11日です。この日は第3学期の「始め」でしょうか?それとも「初め」でしょうか?